(19)日本国特許庁(JP)　(12)特　許　公　報(B2)　(11)特許番号
特許第3631783号
(P3631783)
(45)発行日　平成17年3月23日(2005.3.23)　(24)登録日　平成16年12月24日(2004.12.24)

(51)Int.Cl.[7]　F I
A61F 13/56　A61F 13/18 350
A61F 13/15　A61F 13/18 370
A61F 13/472

請求項の数 4　(全 8 頁)

(21)出願番号　特願平6-203226
(22)出願日　平成6年8月29日(1994.8.29)
(65)公開番号　特開平8-66428
(43)公開日　平成8年3月12日(1996.3.12)
審査請求日　平成13年7月9日(2001.7.9)

前置審査

(73)特許権者　390029148
大王製紙株式会社
愛媛県四国中央市三島紙屋町２番６０号
(74)代理人　100082647
弁理士　永井　義久
(72)発明者　辻　ともえ
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内
(72)発明者　中尾　直人
愛媛県伊予三島市紙屋町５番１号　大王製紙株式会社内

審査官　竹下　和志

(56)参考文献　実開平０６－０３８９５３（ＪＰ，Ｕ）
最終頁に続く

(54)【発明の名称】ウイング付吸収性物品

(57)【特許請求の範囲】
【請求項１】
長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングを有するとともに、この両ウイングの前記ショーツに当てがわれる面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、
前記両ウイングを使用面側に折り畳み、前記ズレ止め用粘着手段に仮着されて吸収性物品本体の少なくとも吸収体が配置されている使用面部分を実質的に覆うカバーシートを設け、
かつ前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳んだことを特徴とするウイング付吸収性物品。
【請求項２】
折り畳み状態におけるカバーシートの両側縁部分をヒートシール接合し、吸収性物品本体を包装した請求項１記載の吸収性物品。
【請求項３】
長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングを有するとともに、この両ウイングの前記ショーツに当てがわれる面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、
前記両ウイングを使用面側に折り畳み、両ズレ止め用粘着手段に跨がって剥離紙を仮着す

るとともに、この剥離紙に接着されて吸収性物品を実質的に覆うカバーシートを設け、かつ前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳み、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部分をヒートシール接合し、前記吸収性物品本体を包装したことを特徴とするウイング付吸収性物品。

【請求項４】

前記カバーシートの長手方向一端側に止着用テープを備える請求項１～３のいずれか１項に記載のウイング付吸収性物品。

【発明の詳細な説明】

【０００１】

【産業上の利用分野】

本発明は、取扱性に優れるとともに、使用面に触ることなくショーツ等に圧着固定することができ、さらに包装の便を図ったウイング付の生理用ナプキンやおりものシートといった吸収性物品に関する。

【０００２】

【従来の技術】

例えば生理用ナプキンは、経血の排出中、人体の局部に当てがうようにショーツに貼着して使用されるが、日常生活で普通に行われる歩行や軽い運動等を使用中に行うと、それらの行動に伴って局部との相対位置がズレ易くなる。このようなズレが生じた場合、経血がショーツから漏れ易くなるため、かかる横ズレを防止することは非常に重要である。

【０００３】

近年、横ズレを防止するために、図８に示すような生理用ナプキンが用いられている。この生理用ナプキン２０は、非使用面側にその大部分を覆うように粘着剤が塗布されており（図示していない）、この粘着剤の粘着力によりショーツとのズレを防止するとともに、ナプキン本体の長手方向中間の両側部に、外方に延在するウイングW，Wを一体的に備え、かつこれら各ウイングW，Wには粘着剤２１、２１が塗布されている。製品状態では、これらの各粘着剤面２１、２１…にはそれぞれ剥離紙が剥離可能状態で夫々仮着されている。

【０００４】

前記生理用ナプキンをショーツに固定する際には、先ず非使用面側に仮着されている剥離紙を剥がし、ショーツの股間部にあてがい、次いで、両ウイングW，Wに仮着されているそれぞれ剥離紙を剥がし、図９に示すように、ウイングW，Wをショーツ２２の股間部の側縁を回し、ショーツ２２の股間部外面にそれぞれ当てがう。これら非使用面側の粘着剤およびウイングW，Wの粘着剤によってナプキンの横ズレが防止される。

【０００５】

他方、生理用ナプキン等の吸収性物品は、衛生上の理由や携帯の便を図って、通常、個装袋により単体毎に包装され市販されている。

【０００６】

【発明が解決しようとする課題】

しかしながら、前述したウイング付の生理用ナプキンやウイング付のおりものシートといった吸収性物品の場合には、横ズレ防止効果は非常に高いものの、その取扱性に欠けるものである。たとえば、各剥離紙の剥離作業に当り、吸収性物品本体の非使用面側に仮着されている剥離紙の場合には、その面積が大きいため剥離し易いが、両ウイングに仮着されている剥離紙の場合には、その面積も小さく剥がしづらいため、その剥離作業に手間取るなどの問題が生じている。

【０００７】

また、吸収性物品をショーツにあてがう際に、粘着効果を高めるためにナプキンを表面側から指や掌で圧着して固定することが行われるが、使用面を直接手で押圧すると、手に付いている手垢やばい菌類を表面シート面に転移させることになるため、非常に不衛生であるなどの問題がある。

【０００８】

他方、吸収性物品は、前述のように衛生上の理由により、個装袋により単体毎に包装されているが、この個装袋分のコストが別途必要になっているとともに、その使用に当たっては、個装袋の封を切って内部の吸収性物品を取り出す作業が必要となっている。

【０００９】

そこで、本発明の主たる課題は、剥離紙、特に両ウイングに仮着されている剥離紙を容易に剥がすことができ、また手で表面シートに直接触ることなくショーツに圧着固定できるようにすること、および包装の便を図り、経済的かつ取扱いに優れたものにすることにある。

【００１０】

【課題を解決するための手段】

上記課題は、長手方向中間の両側部分に、使用状態においてショーツの股間部の側縁を回り込んでショーツ外面にそれぞれ当てがわれるウイングを有するとともに、この両ウイングの前記ショーツに当てがわれる面に、それぞれズレ止め用粘着手段が形成された吸収性物品において、前記両ウイングを使用面側に折り畳み、前記ズレ止め用粘着手段に仮着されて吸収性物品本体を実質的に覆うカバーシートを設け、かつ前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳むことで解決できる。さらに、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部分をヒートシール接合し、前記吸収性物品本体を包装することができる。

【００１１】

また、本発明の吸収性物品において、前記両ウイングを使用面側に折り畳み、両ズレ止め用粘着手段に跨がって剥離紙を仮着するとともに、この剥離紙に接着されて吸収性物品本体を実質的に覆うカバーシートを設け、かつ前記カバーシートを外面側として、長手方向に折り畳み、この折り畳み状態における前記カバーシートの両側縁部分をヒートシール接合し、前記吸収性物品本体を包装した構成を採ることができる。

【００１２】

前述のカバーシートを包装用シートとして利用する場合、前記カバーシートの長手方向一端側に止着用テープを備えることが望ましい。

【００１３】

【作用】

本発明では、両ウイングを使用面側に折り畳み、前記ズレ止め用粘着手段に仮着されて吸収性物品本体の使用面を実質的に覆うカバーシートを設ける。したがって、直接使用面に手を触れることなく、カバーシートの上から指や掌で圧着して吸収性物品をショーツに圧着固定することができるために、非常に衛生的である。

【００１４】

また、前記ズレ止め用粘着手段によって仮着されたカバーシートが従来の剥離紙代わりとなっているため、ウイング部の使用に当り、カバーシートを摘んでこれを容易に剥がし取ることができ、従来のように剥離作業に手間取ることが無くなり、取扱性が格段に向上する。

【００１５】

さらに、両ウイングを使用面側に折り畳み、前記ズレ止め用粘着手段に仮着されて吸収性物品本体を実質的に覆うカバーシートを設け、かつこれを包装用シートとして吸収性物品本体を包装する。したがって、包装袋を別途用意する必要もなく、コスト的に有利になるとともに、カバーシートを破って展開させると、同時に吸収性物品本体も展開され、即使用可能な状態となるため、使用時の一連の作業は簡略され、取扱性に優れたものとなる。

【００１６】

【実施例】

以下、生理用ナプキンを例にとり、本発明を具体的に説明する。

図１は本発明に係る生理用ナプキンの斜視図であり、図２は図１のⅦ－Ⅶ線断面図、図３はその背面図である。

図１に示される生理用ナプキン本体Ｎ（以下、単にナプキン本体ともいう。）は、ポリエ

チレンシートなどからなる不透液性シート１と、不織布または孔開きプラスチックシートなどからなる透液性シート３と、その間に介装された綿状パルプまたは合成パルプなどからなる吸収体２とから構成されている。また、前記不透液性シート１と透液性シート３とは、それらの外縁部分Ｆがホットメルトなどの接着剤やヒートシール等の接着手段により重ね合わされているとともに、ナプキンＮの長手方向中間部の両側に、吸収体２が存在せずに、不透液性シート１と透液性シート３とが共に延在してフラップ状のウイングＷ，Ｗが形成されている。

【００１７】

前記ウイングＷ，Ｗの不透液性シート面側には、ズレ止め用ホットメルト粘着剤４、４がロールまたはノズル等により塗布されており、特に，このウイングＷ，Ｗが使用面側に折り畳まれ、前記ズレ止め用ホットメルト粘着剤４、４を仮着手段として、実質的にナプキンを実質的に覆うカバーシート５Ａが設けられている。

【００１８】

このカバーシート５Ａとしては、剥離性のものであればよく、適宜の材質のものを使用することができるが、好適には剥離紙、またはプラスチックシート、プラスチックフィルムなどが用いられる。また、前記カバーシート５Ａには、長手方向一端側に止着用テープ１０が固定されている。なお、前記カバーシート５Ａとしては、生理用ナプキンＮの全面を覆う広さ以上のカバーシートを用いるのが好ましいが、場合によっては、前記止着用テープ１０が固定されている側と反対側については、鎖線Ｌで示されるように、生理用ナプキンＮの一部が露出していても問題ない。しかし、この場合でもナプキンＮのショーツへの圧着固定のためには吸収体２が配置されている使用面部分は、カバーシート５Ａによって実質的に覆われていることが必要である。

【００１９】

また、図３の背面図に示されるように、ナプキンＮの非使用面（不透液性シート面側）には、たとえば、ズレ止め用ホットメルト粘着剤８が比較的広い面積に渡って適宜のパターンで塗布されており、このズレ止め用ホットメルト粘着剤８が剥離紙７により被覆されている。

【００２０】

かかる生理用ナプキンＮは、たとえば図４(a) ～(d) に示される要領によって包装される。

先ず、図４(a) に示される平面展開状態から、図４(b) に示されるように、カバーシート５Ａを外面側として、長手方向にほぼ３等分された止着用テープ１０の固定されていない側の一端側部分を折り返した後、図４(c) に示されるように食い違い状態で止着用テープ１０が固定された側の他端側部分をその上に重ねるようにして折り畳み、最後に、前記止着用テープ１０をカバーシート５Ａ上に止着して固定する。この状態から、図５に示されるように、前記カバーシート５Ａの両側縁１１、１２をその外縁に沿ってヒートシール接合して、カバーシート５Ａを包装用シートとして包装された生理用ナプキンを得る。なお、前記止着用テープ１０による止着に代えて、カバーシート５Ａの端縁をホットメルト接合またはヒートシール接合することもできる。なお、本例の場合には、ナプキンを長手方向に３つ折りとして包装したが、２つ折り、４つ折りまたはそれ以上の折りとして包装することも可能である。

【００２１】

前記した生理用ナプキンＮの使用にあたっては、先ず止着用テープ１０を剥がして、両側縁１１、１２の接合部分を引き裂きながら折り畳み部分を展開させて図４(a) に示される平面展開状態とする。その後、先ず背面側の前記剥離紙７を剥がして、ショーツの股間部に当てがい、前記カバーシート５Ａの上から指または掌を使って押圧しナプキンをショーツに押し付け、しっかりと圧着固定する。しかる後、カバーシート５Ａを摘んで剥がし取り、ウイングＷ，Ｗをショーツの股間部の側縁を回して、ショーツ外面にそれぞれ当てがい、ウイングＷ，Ｗの上から指または掌を使って押圧し、しっかりと圧着固定する。このようにして装着された生理用ナプキンは、前記非使用面側のホットメルト粘着剤８および

前記ウイングW，Wのズレ止め用ホットメルト粘着剤４、４により横ズレが完全に防止された状態で装着される。

【００２２】

次いで、図６に示される他の生理用ナプキンは、ナプキン本体は他と同様であるが、カバーシート５Ａの取り付け態様を変更した例である。先ず、前記両ウイングW，Wを使用面側に折り畳み、両ズレ止め用ホットメルト粘着剤４、４に跨がって剥離紙６を仮着するとともに、この剥離紙６の表面側に塗布されたホットメルト接着剤９を止着手段として生理用ナプキンＮを実質的に覆うカバーシート５Ａが設けられている。この場合も、前記剥離紙６とカバーシート５Ａとは、容易に剥離しないように強固に接着されており、カバーシート５Ａを摘んで剥がし取ると、剥離紙６が同時に剥がされるようになっている。

【００２３】

ところで、本実施例においては、透液性シート３と不透液性シート１との間に吸収体２が介在されたタイプの生理用ナプキンを例に採り説明したが、他のタイプの生理用ナプキン、たとえばポリエチレンラミネート不織布の上に紙で被包された吸収体をホットメルト接着剤により強固に固定したタイプの生理用ナプキンなど、ウイングを有する生理用ナプキンやおりものシートといった吸収性物品全てに対して適用可能である。

【００２４】

【発明の効果】

以上詳説のとおり、本発明によれば、吸収性物品本体の使用面に直接触ることなく、カバーシートの上から押圧して吸収性物品をショーツに対して圧着固定することができるため、非常に衛生的なものとなる。また、カバーシートが従来の剥離紙代わりとなっており、剥離も簡単に行うことができる。さらに、カバーシートで包装用シートを兼用しているため経済的であるとともに、開封も容易となり取扱性に優れたものとなる。

【図面の簡単な説明】

【図１】本発明に係る生理用ナプキンの斜視図である。

【図２】図２の VII－ VII線矢視図である。

【図３】本発明に係る生理用ナプキンの背面図である。

【図４】本発明に係る生理用ナプキンの包装手順図である。

【図５】本発明に係る生理用ナプキンの包装状態斜視図である。

【図６】本発明に係る他の生理用ナプキンの一部破断斜視図である。

【図７】図６のXII-XII 線矢視図である。

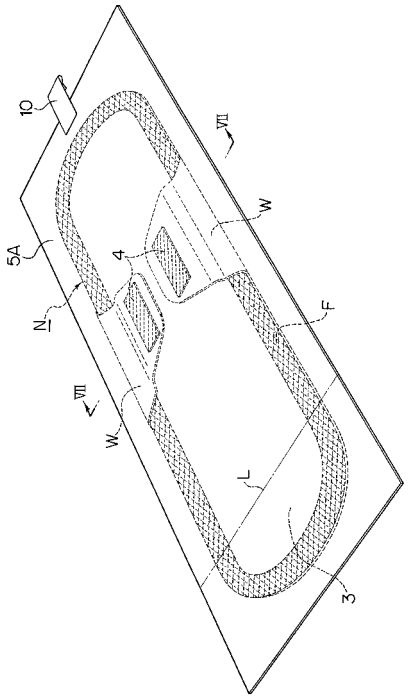
【図８】従来のウイング付生理用ナプキンの斜視図である。

【図９】ウイング付生理用ナプキンの使用状態図である。

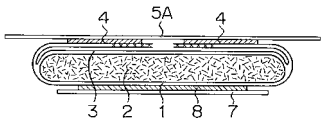
【符号の説明】

１…不透液性シート、２…吸収体、３…透液性シート、４・８…ズレ止め用ホットメルト粘着剤、５・５Ａ…カバーシート、６・７…剥離紙、１０…止着用テープ、W…ウイング。

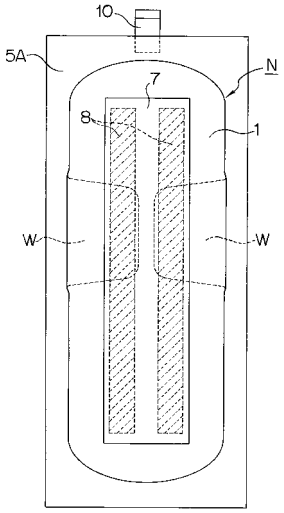
【図１】


10
VII
W
5A
4
N
F
VII
W
L
3

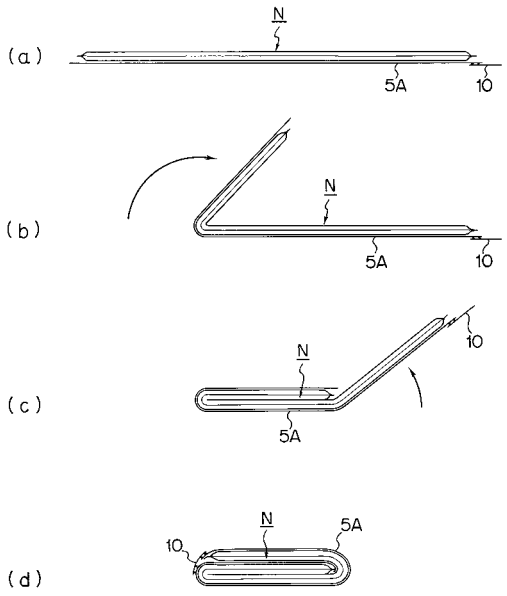
【図２】


4
5A
4
3
2
1
8
7

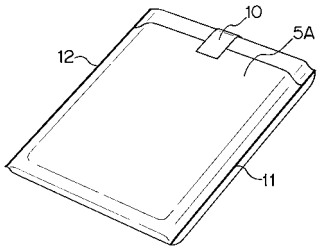
【図３】


10
5A
N
7
8
1
W
W

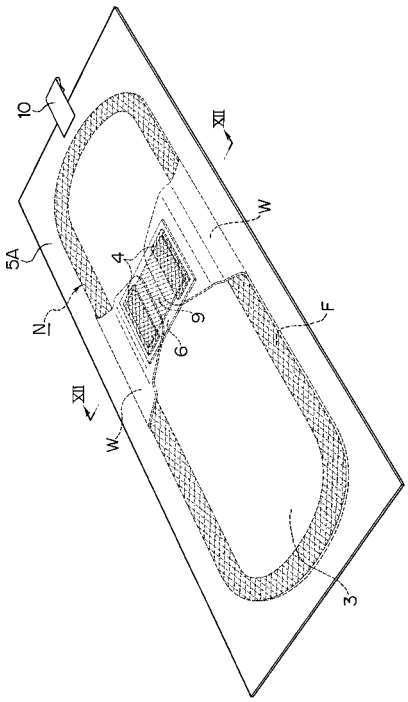
【図４】


(a)
N
5A
10
(b)
N
5A
10
(c)
N
10
5A
(d)
N
5A
10

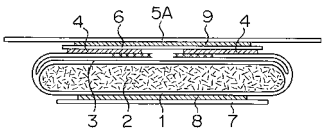
【図５】


10
5A
12
11

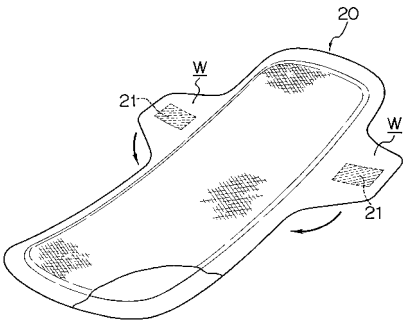
【図６】



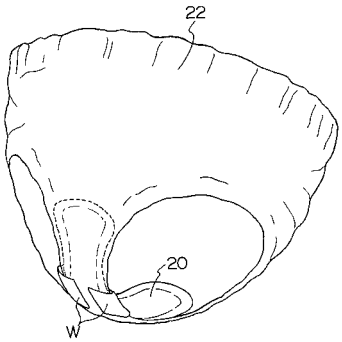

【図７】




【図８】




【図９】



フロントページの続き

(58)調査した分野(Int.Cl.[7], ＤＢ名)
A61F 13/15 - 13/84